５年度入試 順調に進む

SB日程 受験チャンスを拡大



津田沼校舎のＡ日程試験会場で（２月１日）

A日程、SA日程入学試験が2月1~4日の4日間、津田沼試験場と全国の17試験会場（2月1、2、3日のみ）で実施された。天候不良や交通機関の乱れなどのトラブルはなく、試験は無事に終了した。

今年度のA日程志願者数は3万5392人（昨年比981人増）、SA日程では1万5095人（昨年比1124人増）と、両試験とも昨年志願者数を上回る結果となった。

17、18日には、同じ津田沼試験場と全国の17試験会場（17日のみ）で、B日程、SB日程入学試験が実施された。17日には一部の地域で交通機関の乱れなどがあったが、試験時間に影響はなく、予定通りに開始された。

B日程志願者数は1万5965人（昨年比2448人減）と昨年志願者を下回った。

SB日程は、数学と国語の総合問題により評価する今年度新設された試験種で、数学Ⅰ・Ⅱ・A（場合の数と確率・図形の性質）・B（数列・ベクトル）、国語総合（古文・漢文を除く）の内容を問う問題を出題している。

A日程＋SA日程と同様、セットで同時出願をすることでB日程の受験料のみでSB日程も併願することが可能。B日程・SB日程は同日試験日に別時間で実施となっており、受験生へチャンスを拡大するとともに、受験料の負担も軽減した。

SB日程の志願者総数は5950人となった。

このほか、大学入学共通テスト利用入学試験（中期＝本学試験なし）の志願者数は7871人（昨年比95人増）と、昨年を若干上回る結果となった。

NEWS CIT
ニュースシーアイティ
2023 2.15

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016　千葉県習志野市津田沼2丁目17番１号
TEL 047(478)0222　FAX 047(478)3344
https://www.it-chiba.ac.jp/

毎月１回（８月を除く）15日発行

ニュースガイド

2面　柳さん学生奨励賞／安田さん松元さん学生論文賞／小野澤さん大原さん国際会議で受賞／大山さん敢闘賞／天満さん軽金属溶接協会賞
3面　亀田研へ海洋プラ最新鋭分析装置／千葉興銀から寄付／津田沼パルコ閉店へマッピング
4面　南房総市でロボ体験講座／復興願い「竹あかり」／ボッチャ体験講座／訃報

ロボ工学1期生 卒業

ハノイ国家大 本学全面協力、開設4年



本学の海外交流協定校であるベトナムのハノイ国家大学工科大・ロボット工学科の1期生26人が1月11日、晴れの卒業式を迎えた＝写真。本学が全面協力して同大にベトナム初のロボット工学科が開設されて4年。本学の瀬戸熊修理事長と古田貴之・未来ロボット技術研究センター所長が現地で来賓として出席。瀬戸熊理事長は、卒業生一人一人と握手を交わし、門出を祝福した。

式典であいさつに立った瀬戸熊修理事長は「これからも共に助け合い、より深い交流を通じて、国と世界を変革する中心であり続けましょう。未来の世界を創るのは私たちなのです。卒業生の皆様が、社会を変革させる科学技術者として世界に羽ばたくことを期待します」と祝辞を述べた。

同大のロボット工学科開設は2015年に瀬戸熊理事長と古田所長らが現地を訪れた際、同大のグエン・ベト・ハー学長から協力を要請されたのがきっかけ。同大と本学は13年に交流協定を締結、特にロボット工学の分野で同大学生が本学を訪れ実習授業に参加するなど交流してきた。

その後、ベトナム側でロボティクス分野の強化が急がれ、本学のカリキュラムをそっくり移植する形で、19年9月に同国初のロボット工学科が開設された。

本学の未来ロボティクス学科のカリキュラムは理論ファーストではなく、演習科目を履修する過程で理論の重要性を理解させるという特色があり、「習うより慣れろ」を基本とする実践的な教育がベトナム側から期待された。

以来、本学側は教育コンテンツの提供だけでなく、教員を現地に派遣して短期集中講義を行ったり、同大教員を日本に招いて研修を行うなど全面支援してきた。こうした取り組みによって本学は、私立大では唯一、文部科学省の「日本型教育の海外展開推進事業（EDU-Portニッポン）」の公認プロジェクトの採択を受けた。

ハノイ国家大では、学部レベルに加えて、22年9月に修士レベルのロボット工学専攻を立ち上げた。本学はそのための客員研究員招聘事業を24年まで継続する。

４年度前期 グッド・レクチャー賞に12教員



令和4年度前期のグッド・レクチャー賞に教員12人が選ばれ、1月19日の受賞式で松井孝典学長から表彰された＝写真。

令和2年から、過去5回以上ベスト・ティーチャー賞を受賞した教員をDistinguished Teacher、過去5回以上グッド・レクチャー賞を受賞した講義をDistinguished Lectureと認定して表彰対象からは外すこととしている。これまでにプロジェクトマネジメント学科の鴻巣努教授がDistinguished Teacherに認定され、未来ロボティクス学科の米田完教授、教育センターの市川洋子助教の講義がDistinguished Lectureに認定されている。

今年度前期受賞者は次の通り（順不同）。

▽グッド・レクチャー賞＝電気電子工学科・山崎克巳教授、都市環境工学科・内海秀幸教授、小田僚子教授、建築学科・石原沙織准教授、知能メディア工学科・宮田高道教授、情報ネットワーク学科・山崎治准教授、プロジェクトマネジメント学科・関研一教授、教育センター（工学部）橋口秀子教授、福嶋尚子准教授、教育センター（創造工学部）引原有輝教授、教育センター（情報科学部）杉山和成准教授、教育センター（社会システム科学部）木島愛教授

非破壊検査の性能向上で

柳さん ■ 学生奨励賞受賞



2022 IEEE AP-S Japan Student Encouragement Award（米国電気電子学会アンテナ・伝搬学会の東京支部が主催する学生奨励賞）は、昨年推薦された論文の審査結果を発表。柳理央（やなぎりお）さん（情報通信システム工学専攻修士2年、長敬三研究室＝**写真**）の「Reduction of synthetic aperture array element in THz imaging using compressed sensing and A Study on THz Reflection Imaging of Two Metal Wires Using Compressed Sensing（テラヘルツ波を用いた非破壊検査における圧縮センシングによる分解能向上に関する2論文）」が学生奨励賞に選ばれ昨年12月25日付で表彰された。

長研究室では、携帯電話などの無線応用技術、特にアンテナに着目し空間多重伝送技術などを研究している。柳さんはテラヘルツ波を用いた非破壊推定について、位置推定アルゴリズムに圧縮センシングを用いることで検査の精度を上げることができた。

論文では、分かりやすく定量的に表すよう意識したという。柳さんは「学外で研究を見ていただく機会はあまりないので、良い評価をいただき心からうれしく思います」と喜んでいた。

● 柳 理央さん

「Reduction of synthetic aperture array element in THz imaging using compressed sensing and A Study on THz Reflection Imaging of Two Metal Wires Using Compressed Sensing（テラヘルツ波を用いた非破壊検査における圧縮センシングによる分解能向上に関する2論文）」

柴田研の2人が受賞

小野澤さん大原さん ■ 色材協会国際会議

顔料・塗料・印刷インキなど色材研究の学術団体「色材協会」の創立95周年記念国際会議（昨年10月25、26日、都内・アルカディア市ヶ谷私学会館で開催）で、論文発表した小野澤彩さん（応用化学専攻修士1年、柴田研究室）が優秀口頭講演賞を、大原明香理（あかり）さん（同）が優秀ポスター賞を受賞した。

2人は柴田研で、物質の界面（接し合う面）をデザインして新機能材料を開発する研究に携わっている。発表テーマと受賞の感想は次の通り。



● 小野澤 彩さん

「Preparation and solid acid catalytic properties of ZnO/TiO2 composites particles（ZnO/TiO2複合粒子の調製およびその固体酸触媒特性）」

酸化亜鉛（ZnO）粒子の表面にチタニア（TiO2）を複合化させることで電子の動きをデザインし、よりよい触媒の開発を試みた。

発表資料の作成は柴田教授と何度もブラッシュアップを重ねた。一部専門外の有機合成実験があり、他研究室の力も借りたという。

「初参加した学会の口頭発表で賞をいただき、うれしく思います。柴田先生と先輩方が積み上げてきたデータの上に成り立つ賞で、今後も研究に尽力したいと思います」

● 大原 明香理さん

「Preparation of a hexagonal plate-like ZnO particles aggregate with a hollow structure（中空構造を持つ六角板状の酸化亜鉛粒子凝集体の調製）」



酸化亜鉛は光触媒材料として知られ、光触媒の性能を向上させるためにさまざまな調製が検討されている。大原さんらは、六角板状酸化亜鉛粒子を用いたO／Wピッカリングエマルション（乳濁液）を調製し、その油滴を鋳型とした球状中空粒子の調製に成功した。酸化亜鉛粒子で構成された空洞を持つ構造物、と読み手に伝わるような図を作るのが大変だったという。

「初めての学会に英語ポスターで発表することは不安で、緊張しましたが、賞をいただけうれしかったです」

信川研2人 学生論文賞

国際シンポ

安田さん松元さん ■ 体内時計や脳神経回路

数学・科学の非線形理論関連の成果を交換する国際シンポジウムNOLTA2022（12月12～15日、Zoomによるオンライン開催）で、情報工学科4年・信川創研究室の安田義熙（よしき）さんが最優秀学生論文賞、松元唯吹（いぶき）さんが学生論文賞を受賞した。2人の発表論文と受賞の感想は次の通り。

● 安田 義熙さん

「Analysis of Functional Connectivity of EEG Reflecting Circadian Rhythm Using Phase Lag Index（Phase Lag Indexを用いた概日リズムを反映した脳波の機能的結合性の解析）」



近年、概日リズム（体内時計）の乱れがうつ病や気分障害、内科疾患の症状悪化につながるとされ、乱れを定量的に把握し、個々人の症状に適した治療法を提案するためバイオマーカー（生理学的指標）の開発が求められている。

従来の脳波解析では、部位特異的な神経相互作用の特定は困難だった。安田さんはPhase Lag Indexと呼ぶ手法で機能的結合性を解析。シータ、デルタ、ベータと呼ばれる周波数帯域で、機能的結合性が昼間と夜間で統計的に有意な変化があることが確認できた。この手法は概日リズムのバイオマーカー開発につながると考えられる。

「英語が得意なわけでもないのに大きな賞を頂けたのは、信川先生のご指導と研究室の皆さんの協力のおかげです。修士に進学して研究を進めたいと思います」

● 松元 唯吹さん

「Long-Tailed Distribution of Excitatory Postsynaptic Potentia Is Enhances Learning Performance of Liquid State Machine（興奮性シナプス後電位のロングテール分布がもたらすリキッドステートマシンの性能向上）」



脳の神経回路で、興奮性シナプスを介した入力で上昇したニューロンの電位を興奮性シナプス後電位（EPSP）という。特に興奮性ニューロン同士の結合のほとんどは結合強度が弱いが、ごくわずかに強い結合が存在する。

松元さんは、このごくわずかな強い結合（long-tailed EPSP）が与える影響を調べようと、リザバーコンピューティング（RC）モデルという機械学習モデルにlong-tailed EPSPを組み込んだスパイキングニューラルネットワークを用いて評価。わずかな強い結合はRCの性能向上に大きく貢献していることが確認され、ガンマ波の神経活動による決定論的なダイナミクスが影響を与えている可能性も示唆された。

「国際学会で賞をいただき光栄です。英語論文は初めてで、文章の添削や相談に乗ってくださった信川教授と東邦大、関西医科大の先生方に感謝しています」

スタンガンの性能に指針

大山さん ■ 発表会で敢闘賞

電気学会東京支部千葉支所の2022年度（第18回）研究発表会（昨年11月26日、オンライン開催）で、大山ゆりかさん（電気電子工学科4年、脇本隆之研究室＝**写真中央**）が発表した「スタンガンの性能特性試験」が敢闘賞に選ばれ、1月17日、賞状が届いた。

共著者に竹下佳佑さん＝**写真右**、石川涼さん＝**同左**（ともに同学科4年）と脇本教授が名を連ねた。大山さんらは脇本研で、高電圧工学・新エネルギーなどの研究に取り組んでいる。

スタンガンは映画などに凶器として登場することもあるが、人体に悪影響を及ぼすほどの威力はない。大山さんらは人体にどれほど影響を与えるのか実験で具体的数値を出し性能評価の指針を示した。



大山さんは「約1年頑張ってきたことが認められ、とてもうれしい。春から社会人ですが、自信がつきました。脇本先生の指導で分かりやすい表現に気をつけました」と語った。

海洋プラごみ 最新鋭分析装置 亀田研へ

■ 日本郵船から寄贈

世界の海に広がり人体への影響も懸念されるマイクロプラスチックについて、本学は1月24日、海洋を共同調査している日本郵船㈱から、超微細なマイクロプラスチックがどの海域にどれだけ浮遊・蓄積し、年間どれだけ増え続けているのか、実測データが不足している。

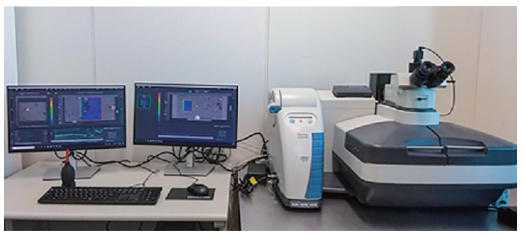
本学と日本郵船は、世界に先駆けて20年3月、主に5㍉以下のマイクロプラスチックの分布調査に協力する覚書を交わした。日本郵船は運航船を活用し、外洋の150カ所余の地点でマイクロプラのサンプルを採取。サンプルは亀田研究室でサイズ・分布濃度・経年などを分析し、世界海洋プラごみマップとしてウェブで公開している。

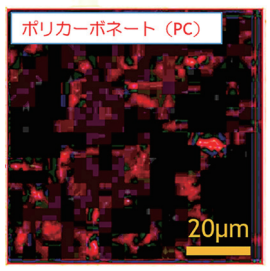
亀田研では、顕微ラマン分光装置を用いて超微細プラスチックを自動分析する手法を世界で初めて確立。今回の装置寄贈で、環境中のマイクロプラの劣化評価も可能になり、プラスチックの代替物質開発に役立つと期待される。

亀田教授は「数年後には大きな代替材料革命が表面化するでしょう」と指摘。「マイクロプラ削減は世界貿易や経済に劇的変化をもたらします。それには世界でまだ測定できない1㌃㍍程度の微小なマイクロプラスチックの把握が鍵となります。本研究室は世界一の研究環境を整え測定技術も開発できました。国連や政府研究機関、企業とも協力しており、（この分野で）世界をリードする人材を輩出していきたい」と語っている。



寄贈式で亀田豊教授(右)に顕微ラマン分光装置の目録を手渡す日本郵船の筒井裕子執行役員


■ 顕微ラマン分光装置＝写真右
試料にラマン分光と呼ばれるレーザー光を照射し、発生する散乱光を高感度で検出、光の波長から物質の化学構造を調べる。超微細なマイクロプラスチックを分析するために不可欠とされる。



■ 超微細なマイクロプラスチック＝同下
約20㌃㍍（0・02㍉）未満のマイクロプラスチック。写真は顕微ラマン分光装置で撮影した超微細ポリカーボネート

津田沼パルコにマッピング

本学も参加 ■ 閉店を飾る

津田沼パルコ（JR津田沼駅北口）の閉店を飾るプロジェクションマッピングが昨年12月2、3日夜、同店の壁面を使って展開された。本学チームも参加し、最新テクノロジーで想像力豊かに未来の津田沼を表現した。

同パルコは1977年7月に開業以来、45年間営業してきたが2月28日を最後に閉店。地域への恩返しと思い出に何か……と、パルコと地元商店経営者らで組織した実行委員会と、津田沼駅北口街づくり協議会がプロジェクションマッピングを企画し賛同団体が協力した。

津田沼駅舎の屋上に大型プロジェクターを設置し、PARCO・A館の高さ30㍍、幅60㍍の壁面に投射。「中からタイムマシンが飛び出し、津田沼の過去から現在・未来を旅する」ストーリーが展開された。1920年代の津田沼駅周辺の映像から始まり、発展を振り返って現在へ。駅のペデストリアンデッキでダンスする若者たちや、八坂神社の祭りが映された。

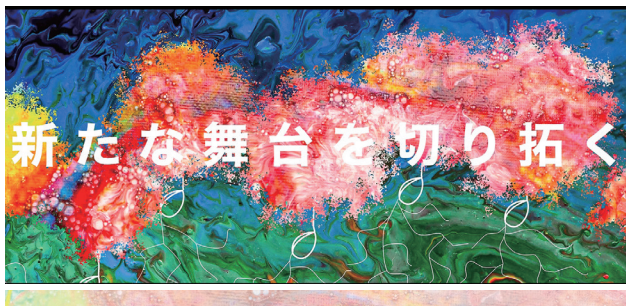
続くパート「20年後の津田沼は――」が本学の出番。1分程度を学生の視点で、と依頼され、デザイン科学科の二井辰也さんら6人チームが、風景の変化とともにバス停の路線図や信号・交通標識も動く標識に変化していく未来を表現した。

二井さんは「全て津田沼駅周辺で撮影し、映像に出た場所が未来へどう変化していくかを体感してもらう作りにこだわった」という。

本学は10秒CMの制作も担当。三澤柾文さんら院生・学生7人が『抽象と具体の融合』『デジタルとアナログの融合』をキーポイントに、大学生活での成長を植物の成長に見立て、学内での出会いや経験を背景のポーリングアートで表現した」（三澤さん）という。

二井さんは「約2カ月の短い期間でしたが、笑顔を生み出すクリエイターとしての貴重な経験ができて、有意義な時間でした」と話していた。







㊤ PARCO壁面に映し出された「20年後の津田沼は――」 ㊦ 10秒CMで千葉工大をアピール

■ 参加学生は次の通り（敬称略）。
未来動画担当 ▽西田絢子研究室＝二井辰也（デザイン科学科4年）、永藤響、狩野駿介、廣田桃佳（以上同学科3年）▽倉斗綾子研究室＝佐々木陽加、二本松梨紗（同）
CM担当 ▽稲坂晃義研究室＝豊田仁美（デザイン科学専攻修士1年）、大元葵（デザイン科学科4年）、徳永龍之助、関口唯愛、福井浩乃（以上3年）▽小早川真衣子研究室＝三澤柾文（知能メディア工学専攻修士1年）、吉田洵（知能メディア工学科3年）


千葉工業大学で（右から）瀬戸熊理事長、ＭＩＴホールディングスの増田社長、千葉興銀の深谷浩之津田沼支店長


目録を贈られる（右から）内海教授、橋本准教授と千葉窯業の池田社長、千葉興銀の金杉毅本店営業部長

■ SDGs取り組み支援

千葉興銀から本学に寄付

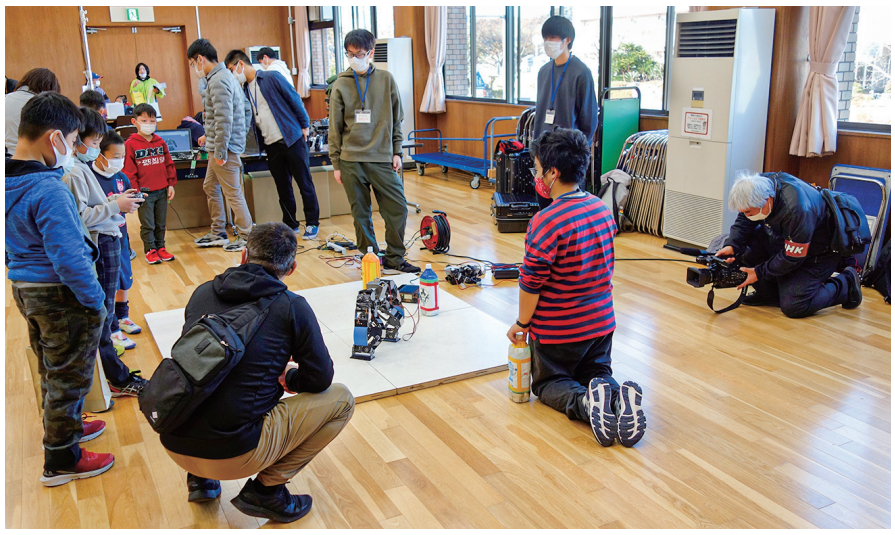
SDGs（持続可能な開発目標）に取り組む本学に1月30日、㈱千葉興業銀行（梅田仁司頭取）から寄贈があった。「ちば興銀SDGs私募債」を発行する企業から同銀行が受け取る手数料の一部を、SDGsに取り組む団体や基金に寄贈しているもの。発行企業は安定資金を調達でき、SDGsへの取り組み姿勢もアピールできる。

今回はMITホールディングス㈱（増田典久社長）と千葉窯業㈱（池田喜美夫社長）から「大学の教育研究に役立てていただきたい」との意向があり同銀行からの寄贈となった。

1月30日、本学で寄贈式があり、瀬戸熊修理事長と、都市環境工学科の内海秀幸教授、橋本紳一郎准教授が出席して、私募債発行会社と千葉興銀から目録を贈呈された。

ものづくりに関心を

南房総市と共催 ■ ロボなど体験講座



㊤2足歩行ロボットの操縦体験を撮影するNHK取材班(右)　㊦AI画伯とイラストづくりに挑戦

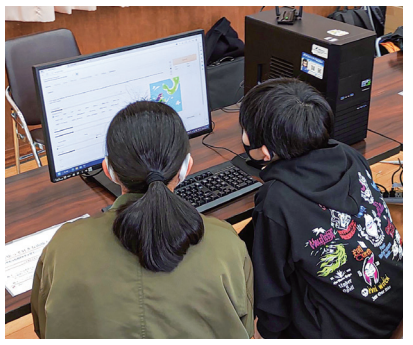
包括的連携協定を結んでいる本学と南房総市は昨年12月25日のクリスマスに、「わくわく科学技術体験講座」を同市の三芳農村環境改善センターで共催。市内の小中高校生や保護者ら約100人が訪れ、学生たちが作ったロボットやドローンを操縦体験した。

共に進める「産学協働地域活力創造事業」の一つ。子どもたちにものづくりへ関心を持ってもらおうと「集まれ未来のエンジニア!」をテーマに開催した。

2足歩行ロボットの操縦体験では、子どもたちがリモコンを細かく動かしてペットボトルの標的を倒した。ドローン操縦コーナーでは、前に進めたり高く上げたりして楽しんだ。小学5年の男子は「難しかったけど、コントローラーで動かすところが楽しかった」。イラストづくりをAI(人工知能)が手伝ってくれるコーナーも人気を呼んだ。

プロジェクトマネジメント学科の加藤和彦教授は「子どもたちが目を輝かせていたのがうれしかった。自分も将来、作ってみたいと思ってもらえたらうれしい」と話していた。

この様子は当日、NHKニュースで放送され、子どもたちが楽しむ姿が映し出された。



復興願い「竹あかり」

本学も参加 ■ 高家神社

竹灯籠で境内を灯す「竹あかり」が昨年12月から、南房総市千倉町南朝夷の高家神社(高木幹人宮司)で催されている=写真。

東日本大震災の沿岸被災者を迎え入れたことがある市内で、令和元年から始められた。千倉地域づくり協議会「きずな」(小沢正順会長)の「高家学ぼう会部会」(堀江洋一部会長)が中心となって、災害復興を願い、天地の恵みに感謝し、コロナ下で失われた交流を取り戻したい、と続けている。

今回は参道の両脇に市立千倉中学の3年生64人がの作った小灯籠約130個が並び、本学非常勤講師で地域アドバイザーの青木秀幸氏が製作した鳥居型オブジェが飾られて、優しい光が境内を彩っている。

催しは3月下旬までの午後4時半から9時半まで点灯される。



42人「ボッチャ」を体験

新習志野で ■ パラスポーツ講座

千葉市と本学のパラスポーツ講座「ボッチャ体験会」が昨年11月10日、新習志野キャンパス体育館アリーナで開かれ、学生・教職員42人がほぼ初めてのスポーツを楽しんだ=写真。

障がい者に理解を深めパラスポーツに関わる学生を育てようと千葉市が進める「大学連携パラスポーツ講座」の一環で、今回は先進工学部教育センター・金田晃一教授の呼びかけで実現した。

ボッチャ(boccia)はボールを意味するイタリア語。重度脳性まひや手足の機能障害をもつ人たちのためのスポーツとしてヨーロッパで考案された。

白い目標球(ジャックボール)に向かって、2チームが青と赤のボールを投げ合い、転がし、他のボールに当てたりして、目標球にいかに近づけるかを競う。投げられなければランプとよばれる滑り台を使ってもよい。陸上のカーリングともいわれ、1988年から五輪の正式種目。

今回は講師に千葉県ボッチャ協会の宮坂昇会長と初見政子さん、ボッチャ競技選手の佐藤大介さんを招いて約2時間、体験会が繰り広げられた。

参加者のほとんどがボッチャ初体験。しかし、体の動きは少ないのに、頭脳を使い、技能レベルが違っても互いに楽しめることが分かり、すっかりボッチャの魅力に取りつかれた様子だった。

金田教授は「一般的なスポーツは運動量が多く、きつい・しんどい・体力や運動能力が必要、と思われがち。でもボッチャを通して、誰もが楽しく参加できるスポーツの存在を知ることで、スポーツへのイメージが変わったり、新しい出会いになれば……。今後も定期的に開いていきたい」と話している



施設課　坂下さん死去



新習志野施設課用務員の坂下茂樹さんが1月7日、胃がんのため死去した。63歳。

平成25年4月1日から勤務し9年9カ月間、施設課の運営を支えた。

PPA

この春に副担任として4年間関わってきた学生たちが卒業していきます。彼らが入学した頃はまだコロナの流行する前だったため、入学時のオリエンテーションも学外で実施でき、飲食を伴う交流会も行っていました。その年の冬にコロナの流行が始まり、キャンパスへの立ち入りが制限され、オンラインでの授業を受けるようになり、友達との交流も制限される中で約3年間の大学生活を過ごしています。

入学時には想像もしなかった状況ですが、置かれた環境の中で、工夫して大学生活を過ごしてくれたと思います。

今年は対面での授業も多く実施され、ゼミでもみんなと顔を合わせる機会が多くなり、以前のような活動ができるようになってきたことはとても嬉しいです。制限されることが多い中、いかに工夫して楽しく過ごしていくかを考えることはとても大切ですし、この先に困難が待ち受けていても、乗り越えていける力になると思います。

この時期、毎年送り出す寂しさを感じますが、彼らの夢が叶うことを願って、笑顔で送り出したいと思います。

知能メディア工学科
田邉　里奈

四季雑感



最強寒波到来と、寒さが一段と厳しくなりました。東北生まれの私は、寒さには強かったのですが、年を取るごとに寒さに弱くなり、寒さ対策が必須に。厚着だけでなく、背中にホッカイロを。これがまたポカポカしていいですね。ただ、背中に貼るのは腕の関節が固まって貼りづらく、何かいい方法はないかなと考えた結果、湿布と同じように床に置いてゴロン!の必殺技を活用。毎朝滑稽な姿でホッカイロを貼っています。

ある日友人に背中にホッカイロ貼ると暖かいよと、アドバイスを。背中は貼りづらいよ、と言われたので、床に置いてゴロン!の必殺技を教えてあげました。すると、「服に貼ってから着ればよくない?」と。衝撃が走りました。天才か、いや、私がアホなのか……あぁ、恥ずかしい。なんて恥ずかしいんでしょうか。毎朝下着でゴロンの時間は何だったのでしょうか。きっといいストレッチになっていたんだと言い聞かせ、今朝から服に貼ってから着ています。

これで一つ利口になれました。日々勉強と経験、これからも精進してまいります。

就職・進路支援部
須藤　岳大

編集だより



津田沼パルコが今月末で閉店する。

実は学生の頃、しばらく津田沼にアパートを借りて住んでいたことがあり、パルコにはだいぶ通った覚えがある。田舎者の私には、津田沼パルコは何でもそろう宝箱のような存在だったのだ。

就職先が千葉工大となってからは、夏が来ると屋上でのビアガーデンが懸垂幕で告知される度、心を躍らせたものだ。

大好きな靴やバッグのブランドも、だいぶ前に店舗は無くなってしまったが、つい最近までお気に入りのショップは点在しており、たま~に偵察なども……。

閉店に向けて、津田沼PARCOと本学デザイン科学科が協力して、最後にBIGに盛り上がるイベント「またねPARCO」が始まった。津田沼PARCOと思い出でつながる参加型のイベントに、大人も童心に返って楽しめそうだ。

閉館自体は寂しいが、「さよなら」ではなく「またね」。学生が感謝の気持ちを込めて試行錯誤したイベントは、最後までワクワクしそうな気配。

入試広報部
大橋　慶子

3月5日(日)C日程入学試験、9日(木)大学院春・秋入学3月試験、21日(火・祝)春分の日、22月(水)学位記授与式